

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

大阪大学 外国語学部以外

前期日程

科目

英語

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

大問4問(英文和訳, 読解総合, 自由英作文, 和文英訳)の構成は例年通り。

- ・Ⅰは, 例年通り, テーマが異なる2つの文章の下線部を和訳する形式。訳すべき部分の量は昨年よりもやや増加。
- ・Ⅱでは, 語句のパラフレーズ問題, 下線部に関して本文の内容と一致する選択肢を選ぶ問題, 下線部の内容を具体的にまとめる記述問題などの多様な問題に加えて, 下線部に関して40～50語程度の英文で自分の意見をまとめるという, 条件つき自由英作文に近い新傾向の問題が登場した。下線部和訳は昨年同様, 出題されなかった。素材文の総語数は昨年よりも増加。
- ・Ⅲは, 昨年初めて出題されたグラフ付きの自由英作文問題ではなく, 2025年以前の形式の, 与えられた問いに対して80語程度の英語で答える通常的自由英作文問題に戻った。
- ・Ⅳの和文英訳は, 形式は例年通りで, 訳すべき部分の分量は昨年より増加。

〈特記事項・トピックス〉

- ・第Ⅰ問, 第Ⅲ問は, 昨年度に引き続き外国語学部との共通問題ではなく, 外国語学部と他学部では全てが異なる問題であった。
- ・第Ⅱ問では, 昨年度初めて出題された英文で答える形式の問題が今年度も出題されたが, 自分の意見をまとめる部分もあり, 実質的には自由英作文に近い問題であった。
- ・第Ⅲ問が2024年以前の通常的自由英作文問題に戻った。

〈合格への学習対策〉

- ・英文解釈: 基本的な語彙, 構文把握, 文脈読解の力をつけることが肝要である。英文読解では, 文脈上のつながり(言い換え, 対比, 因果関係)に注意して読む訓練を積み重ねよう。
- ・自由英作文: 日頃から一定のテーマについて自分の考えをまとめ, それを英語でどう表現したら良いのかを考える習慣をつけておきたい。
- ・英作文: 例文の暗唱によって基本構文・表現を習得するとともに, 問題文をよく読み, そうした表現を用いることができないかどうかよく考えることが大切である。阪大の場合, ある箇所が別の箇所の表現を考える際の手掛かりになる場合も多いので, そうしたヒントに気づき, 用いることができるようにしたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述	(A) 人間の社会的能力が動物にもあるというこれまでの認知 (B) 文学が描く気づきの瞬間	(A) see や lead が作る第5文型, such as による例示, 関係詞の非制限用法, 分詞の形容詞的用法などの理解がポイント。 (B) カンマの用法の理解, また, いわゆる「目から鱗が落ちる」を意味する表現などが解答作成上のポイント。	標準
II	記述 選択	読解総合(論説文) 「動物は芸術を創作することができるのか」	設問(1) 下線部言い換え(選択) [i] intricacy は「複雑さ」の意味。すぐ前の attract に釣られて(イ) attractiveness「魅力」を選ばないように注意。[iv] is a conduit for は後続する文の hand on to others feelings が言い換えになっているので(ロ) conveys「～を伝える」が正解と判断できる。[v] utilitarian は直前の文にある art との対比から(ハ) practical「実用的な」を選べる。	やや難

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

			設問(2) 下線部言い換え(選択) 下線部を含む段落の内容から, 消去法で選択肢を絞れば正解に辿り着ける。いずれも本文の主旨の把握に不可欠な内容が問題として設定されているので, 次の展開を理解するための手助けにしたい。 設問(3) 内容説明(記述) 直後のコロンの以下を抜き出す。mimic と depict はどちらも他動詞で, 後の something else を目的語に取っている。“stand in”「代理する」は知らなくても, representational「代理の」と対応していることが分かれば意味が推測できる。 設問(4) 内容説明(記述) would 以下では, 直前の still consider から by evolution まだが省略されているので, この箇所を抜き出せばよい。なお, discovered の後には that が省略された節が続き, much が could be explained の主語になっていることに注意。 設問(5) 条件付き自由英作文(記述 英語) 昨年度に続き「英語で説明する」問題が出題された。昨年と異なり, 本文中の具体例に触れながら「あなたの考え」を述べることが要求されているので, 主に設問(1)と(2)で理解してきた内容を活用しながら解答を作成する必要がある。Ⅲの「自由英作文」と合わせて, 自分の考えを英語で述べることに慣れていなければ解答しづらかっただろう。	
Ⅲ	記述	自由英作文	昨年度のグラフについて考察させる形式から以前のような文章だけの課題の形にもどったが, 課題文が従来よりかなり長文で, 「物事のありようを見極める力」というトピックがかなり抽象的であり, また「学問の探求を通してどのような知性や技能を磨くことが求められると考えますか」という部分にどう答えるかが難しい。	やや難
Ⅳ	記述	(A)「音の感じ方の個人差」	「脳で生じる音の感覚」の訳出に工夫が必要だが, 前文にある「ヒトの感じる音」の定義がヒントになる。「個人差が大きい」や「～によって異なる」には, 自動詞の vary / differ や 動詞+ differently, 名詞の difference などを用いて, 同一表現の繰り返しを避けたい。「音を感じる」という際の「感じる」には, perceive を用いるか, seem / sound + 形容詞を使って工夫する。	やや難
		(B) (イ)「じぶんの見えない身体」	第1文の「貧弱な」は主語を工夫すれば less を用いてうまく表現できる。第2文の「ごく限られている」は very limited と表現する以外にも工夫が可能。第3文の「後頭部」は書き慣れていなくても表現するのは比較的容易。	標準
		(B) (ロ)「研究者に必要な才能」	全体の構造を作ることはそれほど難しくないが, 「頑迷」「試行錯誤」「自己懷疑」「耐性」「潔い	標準

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

			諦め」などの表現を正しく訳出することがポイントとなる。第2文の「かくして」は、作例1のように前段落の内容をふまえて書くこともできる。	
--	--	--	--	--

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

出典・資料 ※該当する場合記入

I (B)“Animal Social Cognition”, First published Thu Dec 5, 2024
II Shawn Simpson, <i>The Conversation</i> , “Can Animals Make Art?”